

PRESS RELEASE (2009/10/20)

九州電力㈱と九州大学との組織対応型連携事業による「耳川地域の森林整備に関する総括的研究」の成果について

概 要

九州電力㈱と九州大学との組織対応型連携事業による「耳川地域の森林整備に関する総括的研究」が3年目に入りました。宮崎県日向市で第1回目の林業関係者意見交換会が開催され「持続的な林業経営のための対応策に関する研究」について研究成果を発表いたしました。この研究成果とは、耳川流域の林業経営の実態を調査した結果、90年代前半と比べた状況の変化（木材生産量増加、自営から森林組合への施業委託の増加傾向等）の把握と、それに合わせた耳川広域森林組合の森林所有者に合わせたサポート体制の分類、耳川流域森林・林業活性化センターの機能強化の方策の提案です。

■背 景

宮崎県耳川流域では、記録的な豪雨となった平成17年台風14号により、多くの斜面崩壊が発生しました。平成19年度からの九州電力㈱と九州大学農学研究院森林資源科学部門（研究代表者：近藤隆一郎教授他6名）との総括研究（現在10テーマ）によって、土砂流入と森林の関係、耳川流域の森林の実態及び林業を取り巻く環境等について調査分析し、地元の活力やニーズを活かしながら、森林機能の維持と林業活性化の両面を満足する森林管理、林業経営の方策や体制について検討しています。

■内 容

耳川流域内の木材生産量は約30万m³/年で90年比約2倍となっています。農学研究院の佐藤宣子教授が森林所有者を抽出して経営調査した結果、90年代前半はほぼ自営で施業していたものが、森林組合への委託による施業が増加し、一部では施業の放棄が進んでいることが分かりました。そこで、地元林業関係者に対して森林所有者のタイプに合わせたきめ細かな組合サポート体制を提案しました。また、2000年頃から急激に主伐量が増加しており、機械化が進んでいるため、機械のリース、組合支所間の情報共有と技術交流の必要性や耳川流域全体としての木材販売力の強化を指摘しました。耳川広域森林組合のサポート・推進体制の充実化のために、耳川流域森林・林業活性化センターの機能強化（資源部会、施業部会、担い手部会、作業道部会、マーケティング部会の立ち上げ）を提案しました。

■効 果

耳川流域林業の問題意識の共有化ができ、耳川流域森林・林業活性化センターを核として、継続的に意見交換会を続けていくことになりました。

■今後の展開

今後の意見交換会での成果発表テーマ案（今年度に全4回を実施予定）は次のとおりです。1.「作業道の維持管理手法および住民による管理組織再編成の課題抽出と対応策」2.「ダム湖に影響する要因・エリアの把握とその対応策に関する研究」3.「環境保全型低コスト施業法に関する研究」

【お問い合わせ】

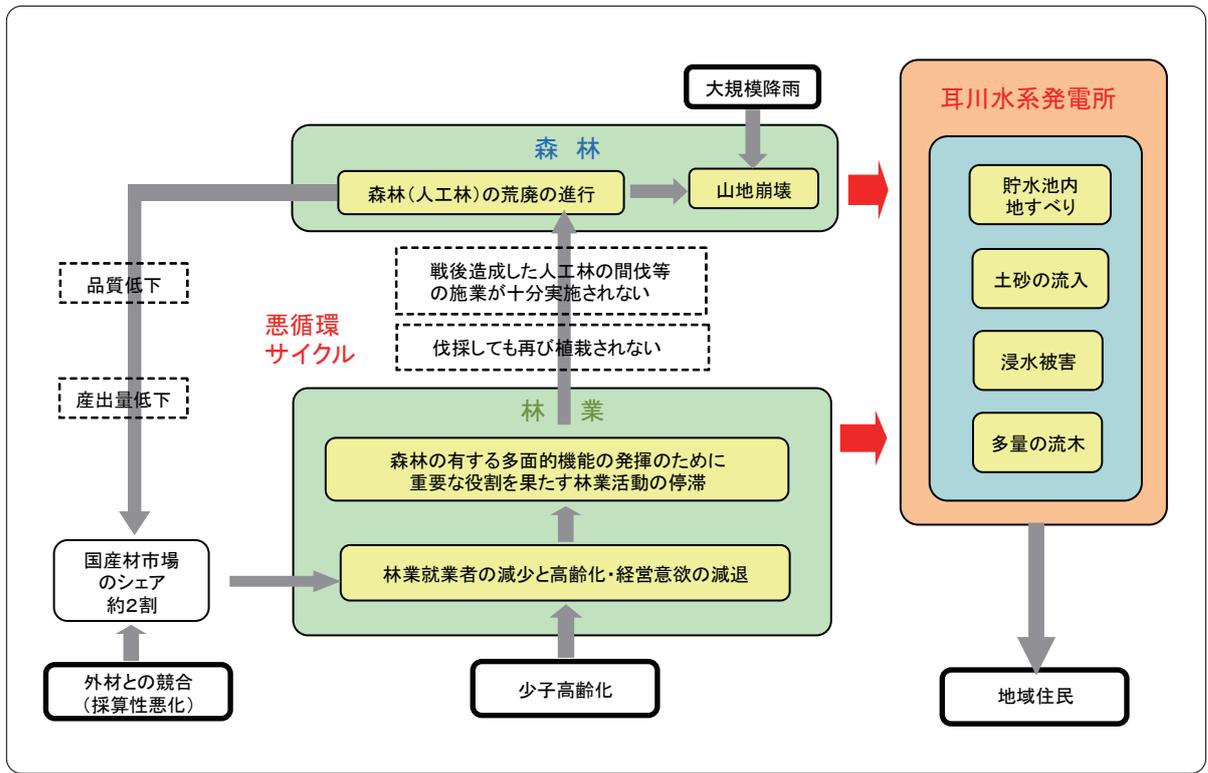
知的財産本部 隅田 憲宏

電話：092-642-4431

FAX：092-642-7127

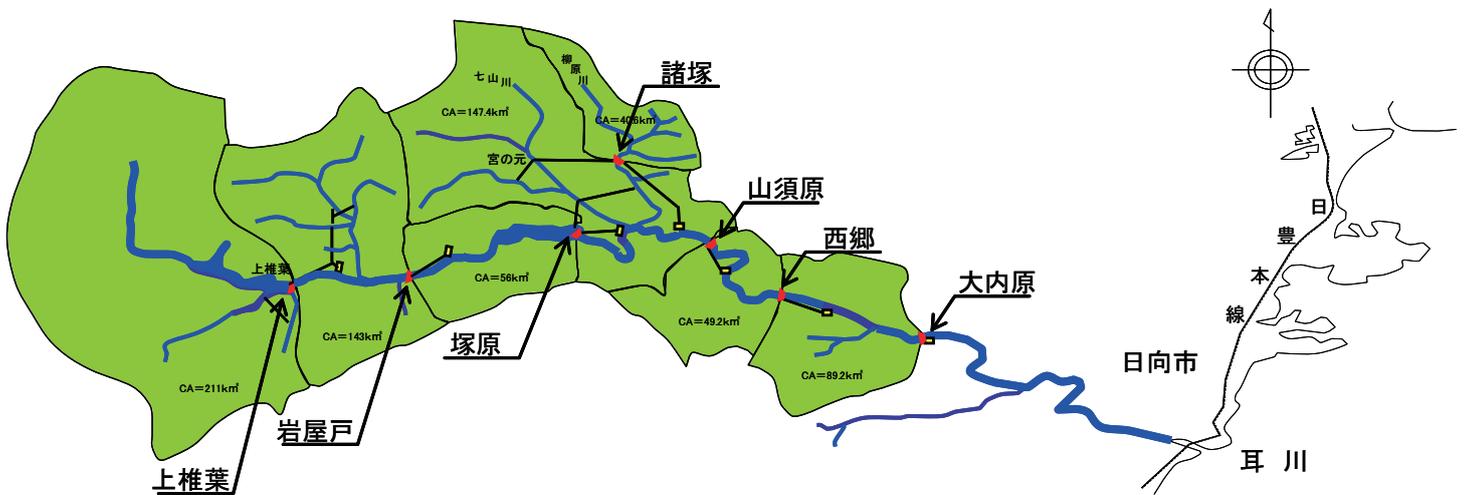
Mail：sumida@imaq.kyushu-u.ac.jp

①



森林と林業の悪循環サイクル

②



耳川地域のダム位置

③



塚原ダム下流における斜面崩壊

④



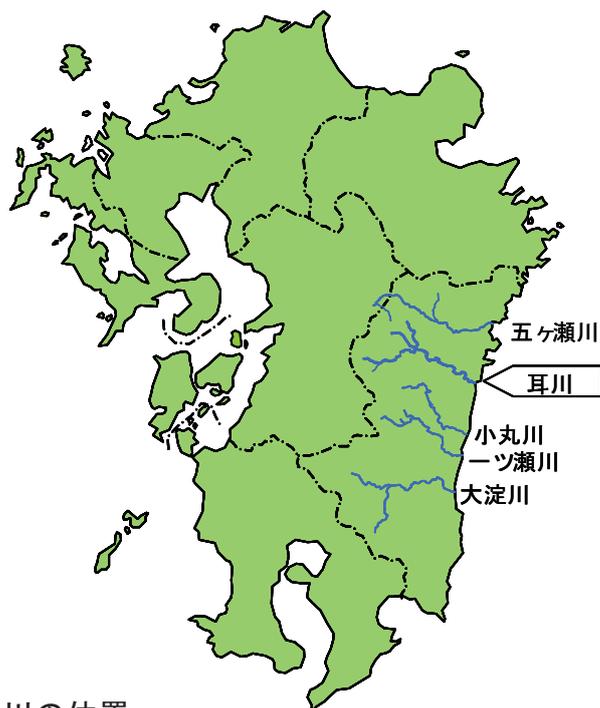
流木の状況（上椎葉ダム）

⑤



大規模崩壊現場の視察の様子

⑥



耳川の位置
(表題の下など、小さく表示。九州のどの位置に耳川が流れているかを示す)